様式Ｃ－１９

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月１３日現在

機関番号：11501
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010 ～ 2012
課題番号：22530948
研究課題名（和文） 実践的教育力養成のための教員研修システムの構築
— 造形美術教育の改善を目指して —
研究課題名（英文） Creation of a Teacher Training System for Art Education
- Aiming for Practical Improvement in the Education of Art -
研究代表者
降籏 孝 （FURIHATA TAKASHI）
山形大学・地域教育文化学部・教授
研究者番号：20302284

研究成果の概要（和文）：
第１に、更新講習を通じて教育現場の実状と共に造形美術教育の課題をあらためて明らかにすることができた。特に小学校学級担任の図画工作教育に関する研修経験は極めて少なく、その機会さえも少ないことがわかった。第２に、学校現場の課題を少しでも解決するための教員研修システムの重要要素を導き出しＲＣＳＩ教育研修システムを構築することができた。第３に、教員研修システムを平成 23 年・24 年の更新講習にて検証できたことである。受講された教師の最終試験や感想等から成果が見られシステムの有効性を確認することができた。

研究成果の概要（英文）：
First, It became evident the current status and issues of art education in school. I found that training experience in art education of primary school class teacher is very little, even that opportunity is small. Second, to build RCSI teacher training system derives key elements of teacher training system to solve issues schools. Third, it was verified by updating training of 2011, 2012, the teacher training system. It was possible to confirm the effectiveness of the system results are seen from filled or final exam teacher who attended

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
総 計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：造形美術教育
科研費の分科・細目：教科教育
キーワード：造形美術教育・図画工作・美術・教員研修・教育力

１． 研究開始当初の背景

（１）学校及び社会状況から
学校教育において「学力低下問題」や「教員の不祥事」などの多くの社会状況や教育問題等を受けて、教育現場の教師達の実践的な教育力が厳しく問われるような社会状況があった。さらに、当時の教育再生会議の審議結果を受けて、教員免許更新制が発足されると共に、教員免許更新講習が本格的に実施されるようになった。
以上のことから学校現場の教師達の実践

的な教育力を向上させるような研究が強く求められる社会的な背景があった。

（２）教員の職場状況から

学校教育現場における教員の職場環境は、児童・生徒指導や部活指導、校務分掌、保護者対応など教科指導よりも生徒等の指導や雑務に追われる多忙で厳しい状況が存在し続けている。そのような状況の中では、教師自身が自分自身の教育実践を振り返り、授業をより良くするような研修に取り組む時間やゆとりが、十分見いだせないという厳しい職場状況がある。それらの厳しい職場環境においても教員は常に実践的な教育力を向上させる義務がある。

（３）造形美術教育の現状と課題から

近年のＯＥＣＤ国際学力調査の結果や全国学力調査などの学力問題等で、学校現場は「読解力」をキーワードに、国語や算数・数学が特に重視されてきた。その効果もありこの教科においては、学力向上の成果が見えている。ところがそれに反して目に見えない弊害として、調査対象でない教科が対象教科と比較して重視されない傾向が見られている。特に本研究の対象である造形美術教育は興味や関心も低く重視されずにその存在が益々影の薄いものとなっていた。

本来「学力」とは、学力調査等の筆記試験にてはかられるものばかりではなく、目には見えないが子供たちに育成すべき想像力や創造性なども含まれたものである。本当の学力向上を考えれば、それら知情意のバランスは無視できないはずである。そのバランスを考える上でも学力調査対象の教科だけでなく造形美術教育の側面への検討と研究も必要であると考える。その点からも研究の意義が存在した。

（４）学校現場教師達の研修機会と経験

そのような社会背景の中で、学校現場の教師達はどのような研修の機会とどれほどの研修経験があるのか、純粋な疑問を持った。

ここでは、他教科と共に造形美術教育に関する研修経験とその機会について、その現状について調査し明らかにする必要があった。

以上のような社会的背景と学校教育現場の現状から、児童・生徒のバランスのとれた教育に実現に向けて、学校現場の教師たちの実践的な教育力を高める教員研修とその研修のシステムを構築する研究の必要性が生まれてきた。

２．研究の目的

本研究の目的は、まず現在の学校教育現場の現状と課題を明らかにする。特に造形美術教育の視点から考察し問題点と課題を明らかにする。その問題点と課題を少しでも解決するために、学校教育現場の教師たちの実践的な教育力を高める有効な教員研修システムを構築することにある。最終的には、我が国の造形美術教育を改善し質的な向上を目指すことである。

以下に具体的な研究目的をあげる。

（１）造形美術教育における現状の把握

毎年継続して実施している学生向けの実態調査だけではなく、今回は学校教育現場の教職歴豊富な教師を対象に実態調査と聞き取り調査を実施する。そこから、現在の学校教育現場の現状と実態を把握すると共に、造形美術教育が抱える問題点と課題を明らかにすること。

（２）教員研修と要素と内容の明確化

上記の実態調査と共に教員免許更新講習の考察などから、教師の実践的な教育力を育成するための重要要素を明らかにすること。さらに、その重要要素を研修システムとして位置づけるような内容を明確化すること。

（３）教員研修システムの構築

上記の研究成果である研修としての重要要素と内容から、具体的な教員研修システムの試案を構築すること。さらに、可能ならば教員免許更新講習の機会を通じて、実際にその教員研修システムを検証してみること。

３．研究の方法

（１）学校教育現場の教師の実態把握

教職歴豊富な教師を対象に毎年実施される教員免許更新講習の機会を活用して実態調査し、学校現場の現状を把握すると共に、さらに焦点を絞り造形美術教育に関する研修経験度や研修機会の現状や頻度を明らかにする。

（２）造形美術教育にかかわる実態調査

毎年継続して実施している大学生を対象とした小学校「図画工作」及び中学校「美術」に関する実態調査を行う。造形美術教育が抱える問題点と課題を明らかにする。

（３）教員研修システムの重要要素と内容

（１）の学校現場教師の実態調査結果の考察から、研修として必要な重要要素を明らかにする。さらに、それを研修システムとして位置づける内容を考察・吟味し明確化していく。

（４）教員研修システムの構築

上記の研究成果から、研修システムの試案を構築する。構築した試案を平成 23 年度及び 24 年度の教員免許更新講習の機会を活用して、研修システムの試案を実施し検証する。

本研究の目的は、まず現在の学校教育現場の現状と課題を明らかにする。特に造形美術教育の視点から考察し問題点と課題を明らかにする。その問題点と課題を少しでも解決するために、学校教育現場の教師たちの実践的な教育力を高める有効な教員研修システムを構築することにある。最終的には、我が国

の造形美術教育を改善し質的な向上を目指すことである。

４．研究の成果

（１）　現在の学校教育現場の現状と課題

本研究では、前研究から継続的に造形美術教育に関する実態調査を実施し考察してきている。今回は、教員免許状更新制の制定により平成 21 年度から本格実施されている教員免許更新講習から、学校教育現場の教職歴豊富な教師を対象に実態調査と聞き取り調査を実施することができた。その実態調査や教員免許更新講習の実施とその考察から、あらためて深刻な学校教育現場の現状と課題が明らかになった。

特に、学校現場の教師たちは教職歴に比例して多くの研修経験があるが、小学校の学級担任にとっては、教科の１つである図画工作に関する研修の機会や経験が極めて少ない。それにもかかわらず、教師たちは図画工作の指導に対して少なからず不安や苦手意識が存在し充実した教育が行われていない。あらためて、現在の学校教育現場における深刻な造形美術教育の問題点と課題を明らかにすることができた。

この研究成果は、主な発表論文等の大学美術教育学会大会④及び⑤にて学会発表すると共に、美術科教育学会誌⑧や山形大学紀要（教育科学）⑦において研究論文としてまとめることができた。

（２）　教員研修の重要要素の明確化

次に前述の教職歴豊富な教師の実態調査結果と教員免許更新講習から考察することで、教師のニーズと共に教員研修としての必要な重要要素を明らかにすることができた。

第１に、教員の自分自身の教育実践を冷静に振り返る場を意図的に設定すること。
(Reconsideration)

第２に教育実践の振り返りから問題点とその課題を明らかにすること。
(Consideration)

第３に、教育実践の問題点と課題の解決策や解消法を考察すること。　(Solution)

第４に、具体的に自分の教育実践をどのように修正し、改善するのか明確化させること。
(Improvement)

この４つの重要要素と内容を教員研修システムに意図的に設定し位置づけることが重要であり必要であると考えた。

この研究成果は、大学美術学会宮城大会③及び美術科教育学会新潟大会④にて学会発表すると共に、山形大学教職・教育実践研究④及び共同研究報告書⑤に研究論文としてまとめた。

（３）ＲＣＳＩ教員研修システムの構築

最終段階として、上記の教員研修としての考察から明らかになった R・C・S・I の４つの重要要素とその内容の検討から、実際の教員研修を想定した試案として、ＲＣＳＩ教員研修システムを構築することができた。

重要要素に対応する具体的な内容については、受講される教師のニーズにも対応しながら、特別な負担や抵抗をかけずに短時間で研修効果が高く期待できるものに厳選して策定してみた。

この研究成果は、大学美術教育学会大分大会①にて学会発表すると共に、山形大学紀要（教育科学）③に研究論文としてまとめた。

（４）ＲＣＳＩ教員研修システムの検証

前述の研究過程から構築したＲＣＳＩ教員研修システムの試案については、平成 23 年及び平成 24 年度の両年、本研究代表者が担当した山形大における教員免許更新講習において実施し検証することができた。

更新講習を受講された教師の最終試験記述や感想などから、今回の講習で自分自身の教育実践を振り返り見なす機会になったことや教育方法のあり方を反省し改善しようとする記述も見られ、教員研修としてのある程度の効果を発揮したことが判明した。このＲＣＳＩ教員研修システムの有効性を証明することができた。

この研究成果については、大学美術教育学会大分大会①にて学会発表すると共に、山形大学紀要（教育科学）③において、研究論文としてまとめることができた。

（５）今後の研究課題

本研究における今後の課題としては、構想したＲＣＳＩ教員研修システムを教員免許更新講習のような特定な機会ばかりではなく、ごく普通においても自由に有効に活用されるような教員研修システムの実用化を目指すことである。

また研究成果として明らかになった大きな課題は、教員の教職歴が豊富であればあるほど完全に出来上がってしまっている教育観や教育方法などの教師の教育実践スタイルをどれだけこの教員修システムで修正し改善できるのかということである。これは、教員養成や教員の初任者研修では存在し得ない大きな課題である。

故に、教員の教育観・評価観をいかに修正し改善していくのか、教育方法について指導改善の有効なヒントとなり得るのか、教員研修システムのさらなる充実と有効性における質的な考察が、今後の研究において求められる。

また学校現場の教師達が多忙な職場環境ゆえに、所属校の研究委嘱や管理職からの依頼や要請がない限り、自己意欲のみで自主的に研修システムを活用するのかも課題である。そのような多忙な職場環境においてもこの教員研修システムが有効に活用される

実用化という側面の課題が今後の研究の焦点となる。

（６）我が国の教育の質的な改善を目指して

近年の『学力』問題等において、益々国語や数学などが重視されている一方で、造形美術教育の教科は、益々影が薄くなっている。

本来『学力』とは、国語・算数等の能力面ばかりではないはずである。我が国の教育の未来を考え、児童・生徒の健やかな成長を願うならば広い視野に立って『学力』を捉え直す必要がある。一部の教科の力だけでなく児童・生徒の知情意のバランスのとれた学力を身につけさせるためには、造形美術教育も軽視されてはならないはずである。

あらためて造形美術教育は何を求め、そして何を目指すべきか。目の前の児童・生徒にどのような力を身につけさせ、これからの社会に貢献するべきなのか、もう一度教育のあり方を問い直し、造形美術教育の意義と重要性とを社会一般に説明し主張する必要に迫られている。故に、造形美術教育はただ楽しく自由にやらせればそれで良いという時代はもう終焉を迎えている。

また、学校教育における教員研修のあり方も形骸化された形式的なものであってはならない。子供たちの未来を考え、現在の学校教育現場の問題点と課題にこたえ得るような本当の教員研修システムが求められると考える。

本研究の最終目的は、造形美術教育を通してわが国の教育を質的に改善し実質的により良くしていくことである。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

① 降籏　孝、「造形美術教育におけるカリキュラム研究－熊本高工『図画工作科の系統的指導計画』の考察－」、大学美術教育学会誌 NO.45、大学美術教育学会、2013、351-358

② 神野恭一、高嶋裕也、降籏　孝、「造形美術教育における実践的教育力（第３年次）－小学校『図画工作科』と中学校『美術科』で学びを支える教育とは－」、平成 24 年度大学と附属校園の共同研究報告書、山形大学、2013、32-37

③ 降籏　孝、「造形美術教育における教員研修システムの構築－図画工作・美術科の実践的教育力向上を目指して－」、山形大学紀要（教育科学）第 15 巻第４号、2013、353-366

④ 神野恭一、高嶋裕也、降籏　孝、「造形美術教育における実践的教育力（第２年次）－小学校『図画工作科』と中学校『美術科』で学びを支える教育とは－」、平成 23 年度大学と附属校園の共同研究報告書、山形大学、2012、34-37

⑤ 降籏　孝、「教育力向上のための教員研修の要素と内容－『図画工作科』の実践的な教育力向上を目指して－」、山形大学教職･教育実践研究第７号､山形大学、2012、45-54

⑥ 伊藤亮、神野恭一、降籏　孝、「造形美術教育における実践的教育力（第１年次）－小学校『図画工作』と中学校『美術』における実践的教育力とは－」、平成 22 年度大学と附属校園の共同研究報告書、山形大学、2011、32-40

⑦ 降籏　孝、「小学校・図画工作を指導している教師の意識と実態－山形県・教員免許状更新講習から－」、山形大学紀要（教育科学）第 15 巻第２号、山形大学、2011、185-202

⑧ 降籏　孝、「学校現場における図画工作教育の課題－教員免許状更新講習の実施・考察から－」、美術科教育学会誌『美術教育学』第 32 号、美術科教育学会、2011、393-404

〔学会発表〕（計５件）

① 降籏　孝､「実践的教育力養成のための教員研修システムの構築　－造形美術教育におけるＲＣＳＩ研修システムの提案－　』、第 51 回大学美術教育学会大分大会、大学美術教育学会、於大分大学、2012 年 10 月 20 日

② 降籏　孝､「今、学校教育現場に求められるもの－実践的な教育力とは？－」、第 34 回 美術科教育学会新潟大会、2012 年 3 月 27 日、新潟大学

③ 降籏　孝､「実践的な教育力を高める教員研修の在り方－造形美術教育における教育力とは－」､第 50 回 大学美術教育学会宮城大会、大学美術教育学会、2011 年９月 24 日、宮城教育大学

④ 降籏　孝､学会シンポジウムパネラー「美術教育・ゼロからの出発」、第 50 回 大学美術教育学会宮城大会、2011 年９月 24 日、宮城教育大学

⑤ 降籏　孝､「図画工作科における実践的教育力のための課題」、第 49 回大学美術教育学会東京大会､大学美術教育学会､2010 年９月 19 日、東京武蔵野美術大学

６．研究組織

(1)研究代表者

降籏　孝　（FURIHATA TAKASHI）
山形大学・地域教育文化学部・教授
研究者番号：20302284